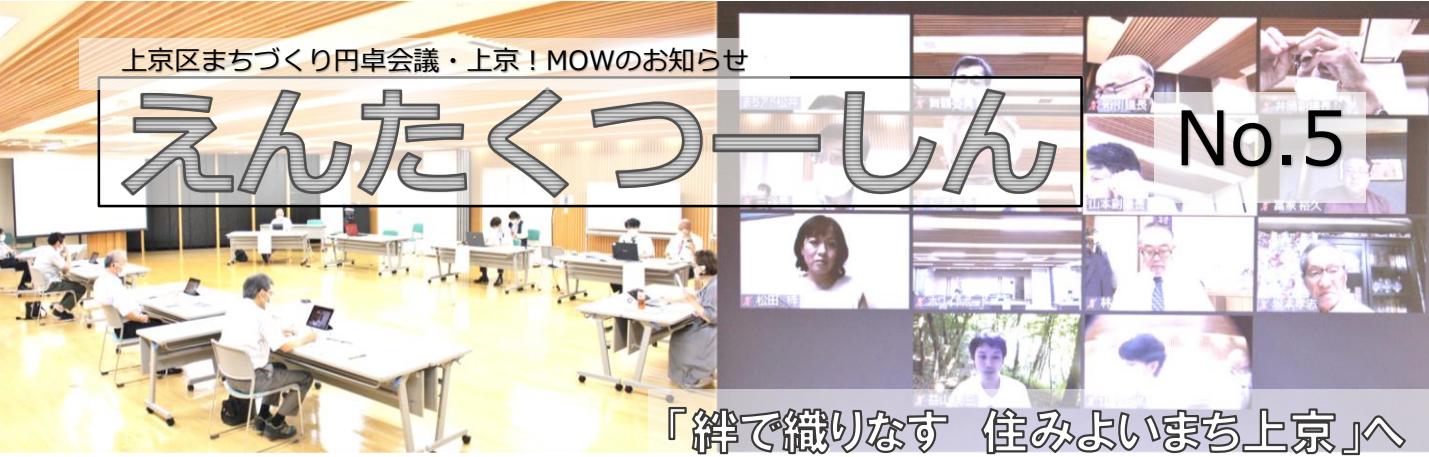


えんたくつーしん

No.5



「絆で織りなす 住みよいまち上京」へ

次期上京区基本計画の策定に向け 令和2年度 第1回上京区まちづくり円卓会議 開催！

現在、上京区では、令和3年度から5年間のまちづくりの指針となる「次期上京区基本計画」の策定に向けて、区民の皆様をはじめ、学生や、中小企業家等の皆様から、多くの御意見・提案をいただきながら、策定の取組を進めています。この度、次期上京区基本計画策定に向けた検討等を行うため、「令和2年度 第1回上京区まちづくり円卓会議」を開催しました。円卓会議は上京区基本計画の推進等を図るための意見交換の場で、区内17学区の代表者、NPO、大学、公募委員等で構成されています。

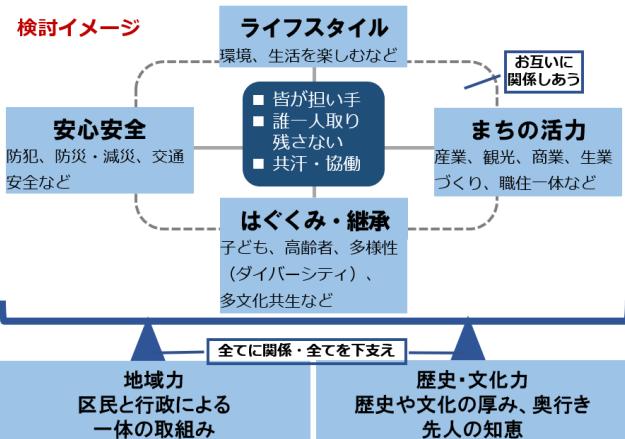
今回の開催手法

新型コロナの感染予防から、4部会の日程右記の通り分け、ZOOMを使用して開催しました。委員には事前にZOOMの使用ができるかどうか確認し、使用できる方は自宅等からの参加、それ以外の方は区役所の会場でiPad等を使用して参加してもらいました。区役所会場はソーシャルディスタンスをとって設営しました。



開催日程

7月28日	安心安全部会
7月30日	まちの活力部会
8月3日	ライフスタイル部会
8月4日	はぐくみ・継承部会



意見交換のテーマについて

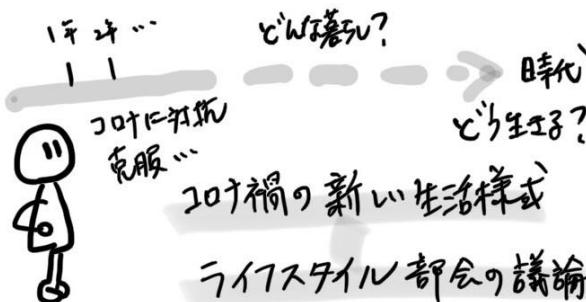
次期基本計画策定に向けての意見交換として①コロナ禍における生活、地域、価値観の変化について「気になっていること」について、②各部会検討資料3の方針1～4について付け足すべきこと、修正したほうが良いこと等について意見交換しました。

各部会の資料3と摘録 → <https://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyo/page/0000273870.html>

ライフスタイル 部会

- 方針1 地域力の維持・向上に向けた取組の推進
 方針2 文化と伝統を大切にするまちづくりの推進
 方針3 地球環境にやさしいまちづくりの推進

- ITリテラシーの格差 = 世代格差 (分断)
 → 高齢者もスマホ、ITが必要と理解
- 情報が多角化 → 必要な人に届いてる?
- イベント中止 → 学生、外国人と地域の接点X
- コミュニティ単位の変容
 地域 → 好きなこと単位、価値観ごと
- 文化継承 → 新しい文化創造の機会
- 御苑のお茶会
 → 個人の嗜好で様々なお茶会の形で実施
 → 森、緑を大事に、増やす
- 体や心、生活を整えるために上京の文化を活用



安心安全 部会

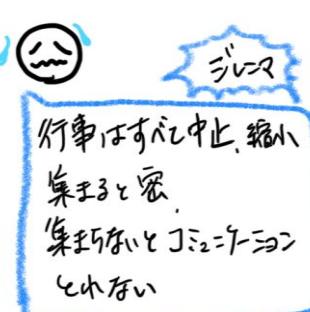
- 方針1 「共助」「近助」を根幹とした「自助」「公助」との連携
 方針2 安心安全なまちづくり
 方針3 空き家対策等の推進

- コロナ禍で、地域の結びつき、絆の大切さに気づいた
- 民泊・ゲストハウスに誰も来ない
- 学区が民泊利用者向けに地域の広報できないか
- 近所の人とコミュニケーションとりにくく
- 災害の記憶を周知 (台風、疫病、空襲)
- 自転車が「車両」という意識が低い
- 白杖が自転車に巻き込まれる事故
- 自分ごととして考え動く人が出てきた
- 消防団と自主防災の垣根を低くする

大窪 健之 教授
立命館大学理工学部



1. コロナ禍で取組例をどう再定義・精査するか
 → 新しいアプローチで出てくものでは
2. 上京ならではの資源
 歴史文化に裏打ちされた資源
 どう災害時にいかすか
 外国人・高齢者
 寺社 = 物資の支援拠点
 (自宅・令敵避難)
3. 伝統・絆の良さをいかして
 新しい交流の形
 安心安全を支える
 より安価度の高い
 施設づくり



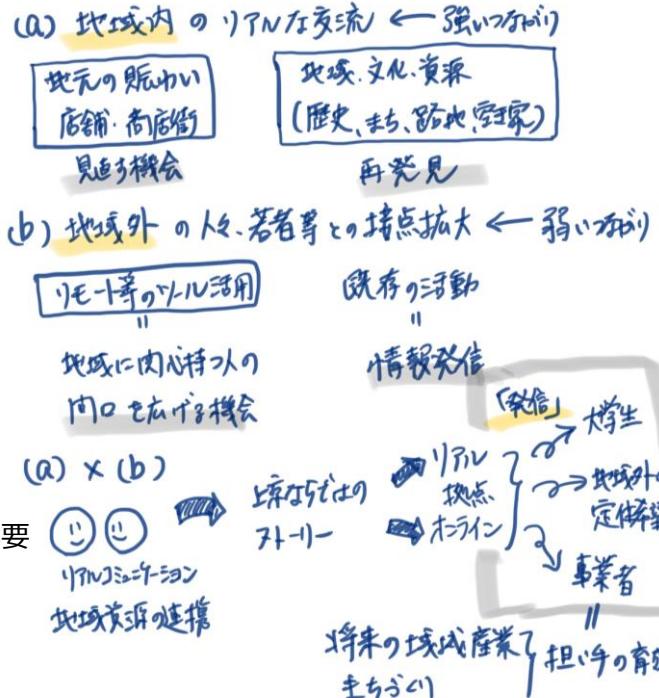
まちの活力 部会

- 方針1 地域住民の暮らしを担う身近な場の活性化
- 方針2 地域産業や地域企業と連携した活力あるまちづくり
- 方針3 ヒト・コト・モノをつなぐまちづくり
- 方針4 上京ならではの資源を活かしたまちづくり



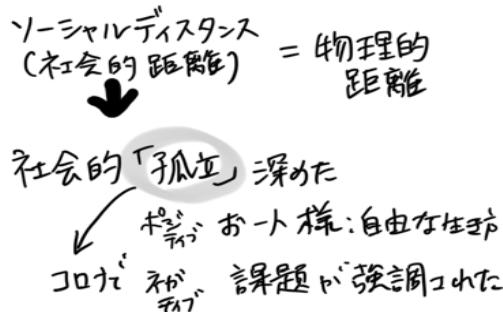
- ・コロナの影響は人によって違う
→一括りの議論は成り立たない
- ・リモート会議の出席率は高いが、コミュニケーションの質や団結力は落ちている
- ・顔を合わせることの重要性感じる
- ・インターネットに乗れない人を切り捨てない
- ・観光拠点：寺・空き家×地域・行政・NPO
- ・糸へん業界の拠点→ビジネスマッチング
- ・卒業後学生が京都に残らない
→企業が地域活動へ参加することに理解する必要
- ・各団体が連携し各々が持つ情報を集約、発信
- ・これまでやっていることの底上げ

吉田 満梨 准教授
立命館大学経営学部



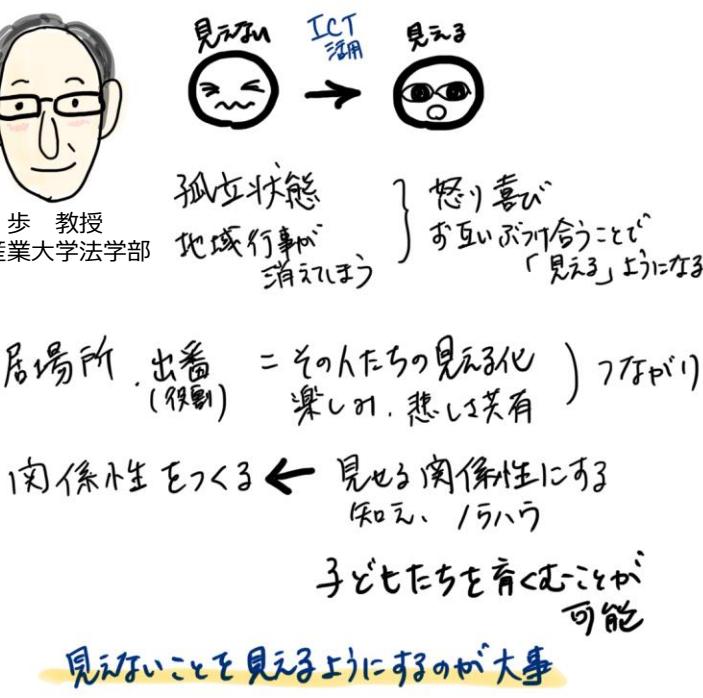
はぐくみ・継承 部会

- 方針1 多様な人が地域で活躍できるまち
- 方針2 地域で子どもを育むまちづくり
- 方針3 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり



- ・障がいのある人はどう受け止めているのか
- ・行事の中止→復活はエネルギー必要
- ・行事のない寂しさを味わい、来年どうするか考える機会にする
- ・在宅勤務で家庭生活：虐待、DV増加
- ・子どものストレス取り除く取組み必要
- ・居場所づくり：空間、役割、生きがい
- ・オンライン活用でつながりやすい人も
- ・高齢者にとって誰か傍にいることで暮らし、生き方代わる←ソリデール事業

中井 歩 教授
京都産業大学法學部



ライフスタイル 部会

コロナヒ
某に生きる → ジュウヤクリスル
最適な生き方、向? を探す。

- ① ICTの活用 ... 独立化をめざす
- ② 地域の低下→各々の地域をつなぐ
見守り
- ③ 若者(内・外) 地域でよりお生きてもらう
ための施策 ← 一緒に生きいく
- ④ 年齢、世代問わず、みんなが成長する
- ⑤ 「伝統・文化」どう育て、新しくする?
→ 私たちが担い手という自覚も
- ⑥ エコな暮らし=より良い生活に価値



安心安全 部会

- ① 離れていないといけない
近づいて即り合はないといけない / 分断
リモート状況
- ② 地域どうし、自助、互助、近隣をつくりあげるへ
→ 連携な取り組み
- ③ 地域の安全
本当の意味で
お互いの見守り
一緒に地域の安全を
守っていくという活動の定義
- ④ 学区の安心安全とともに守ってくれば
可能性ある外の
・地域と連携したことない人
どう地域をあ避えしていくか
地域で近づく仕組み
外の人に地域の人にならうこと 安全



新川 達郎 教授
同志社大学大学院
総合政策科学研究科

まちの活力 部会

- ① いまいま暮らしには、まちの賑わいが大事
- ② 地域の「力」や「宝」が結びついてない
機会 → お互い知り合う
軽いアトラクション
連絡網、豊富な
暮らし

- ③ 文化資源(歴史町、路地、里家)を活用
活動の拠点、出会いの場: 新しい力を
まちの活力
- コロナに耐えうる力が發揮される
まちが豊かなら高齢者が元気に
色々な事業、業界が成り立つ

はぐくみ・継承 部会

生きがいをどうつくまる

- ① 子せ、高齢者、外国人、障がい者
様々な立場の人が主役になる
→ 活動する場所、居場所 大きい
地域の向かいの中でも暮らし = 地域の力↑
 - ② 個人の希望に合わせて暮らせる地域
お互いの理解) 一緒にいる
支え合う社会
- 上京にある地域の資源
(歴史、伝統文化、資源など)
活動する地域団体
町家、社寺
- 未来の希望を
叶える財産

お知らせ

令和2年度 第1回 上京！MOW

開催日時：10月27日（火）午後7時～9時 ※ZOOMにて実施

内容：（1）次期基本計画の将来像「ライフスタイル」「安心安全」「まちの活力」「はぐくみ・継承」をテーマに新たに取り組む事業アイデア・意見交流、（2）新型コロナウィルス感染症の影響で、困難に直面している様々な課題解決に向けた事業アイデア・意見交流 ※募集人員上限ありのため、事前申込制（メールにてZOOMのURL等お知らせします）

<プログラム> ■ 上京！meet up

- 19:00～ 開会、区長挨拶
- 19:10～ 支援事業MOW枠の説明、進行説明、テーマ募集
- 19:30～ ワークショップ1
- 20:10～ ワークショップ2
- 20:45～ 発表
- 20:55～ 新川議長の総括
- 21:00～ 閉会



お問い合わせ 上京区役所 地域力推進室 企画担当

（☎ 441-5029 FAX 432-0566 ☐ kamigyo@city.kyoto.lg.jp）

令和2年12月発行 京都市印刷物 第

号